



#### 14 永禄9年(1566年)頃の 上野国勢力図

天文21年(1552年)3月、北条氏康ほうじょううじやすの攻撃により平井城ひらい(現藤岡市西平井)が落城し、上野国守護で関東管領の上杉のりまさ憲政は越後国に亡命しました。その後、上野国は越後国の上杉、甲斐国の武田、相模国の北条の三つの勢力がぶつかり合う紛争地帯くにしゅうとなっていきます。それに伴い、上野国各地の国衆くにしゅう(在地領主)は一族の存亡をかけた対応に迫られます。この勢力図は永禄9年(1566年)に、武田信玄みのわが箕輪城ひがしあきや(現高崎市箕郷町東明屋)なりもりの長野業盛を攻め滅ぼし、西上野を領有した頃の勢力範囲を表わしたものです。